

大／阪／の／建／築／ま／ち／あ／る／き —— 「東大阪」

つるみじんじゃ
都留彌神社



鳥居



拝殿



手水舎



本殿

所在地： 東大阪市荒川3
 最寄駅： 近鉄布施駅・近鉄河内永和駅
 徒歩5分
 見学： 境内は自由
 TEL： 06-6721-0664
 参考文献： web「ぶらり浪速探訪」、「都留彌神社略記」から一部引用

都留彌神社は、近鉄大阪線布施駅と同奈良線永和駅の南側に位置し、その創建は古く、仁和2年(886年)第58代光孝天皇時代の国史に記載されており、由緒深い神社である。

伝承に依ると、付け替えられる前の旧大和川に「都留美島」と呼ばれた島があったそうで、この島を水の神として祀ったのが神社の創始ではないかとの説がある。

御祭神は、速秋津日子神(はやあきつひこのみこと=海の神)速秋津比売神(はやあきつひめのみこと=河の神)推古天皇・菅原道真などを祀る式内社だそうで、本殿はこの地域には珍しい一間社住吉造銅板葺で、先の大戦時には焼夷弾から宮司や氏子達が命をかけて必死に守ったと言われており昭和初期の建築物だそうだ。

神社略記によると、延喜10年(910年)の大干ばつの際、醍醐天皇が勅使を派遣し、雨乞いの祈願をした所雨が降りこれを喜んで都留彌神社の社号を贈ったと伝えられている。

神社は元々現在地の東側の地、足代に在ったそうだが、大正3年3月、鹿島神社、産土神社、大歳神社、子守神社、稻荷神社、天神社を合祀すると同時に、旧鹿島神社の地である現在の場所に移転したということである。

旧都留彌神社は足代の戎神社として、布施の商店街の中に祀られている。

現在、鳥居をくぐって左側には、阪神大震災後に建てられた真新しい神楽殿があり、今は綺麗な桧色だが、これから歴史が刻まれ重厚な趣が出てくるのではないかとと思われる、小学校の対面に位置している関係上、子供達の遊びの場として、又、いつまでも「鎮守の森」の思い出として残って欲しいものである。(磯田吉郎)